

兵庫県保険医協会尼崎支部 第107回医療と福祉を考える会
医療と介護の勉強会 i-kai 共同開催

脳梗塞による嚥下障害

～もう一度、口から食べたい～

～嚥下障害克服のリハビリを経験して～

日時 4月19日(土) 14:00~16:00
 会場 尼崎市中小企業センター 401会議室
 尼崎市昭和通2-6-68 TEL:06-6488-9501(阪神尼崎駅から徒歩5分)
 講師 (医)阿部歯科医院
阿部 勝也 先生
 参加費 無料

超高齢社会の現代、摂食嚥下障害は増加する一方のトラブルです。また正月には餅をのどに詰まらせ、誤嚥による窒息死のニュースをよく耳にします。私自身、かつて深刻な嚥下障害の患者でした。それは暑い夏の夜のこと、突然の脳梗塞に襲われ意識消失。ICUから一般病棟に移っても片麻痺で歩けず、嚥下障害のため飲むことも食べることもできず、リハビリに明け暮れる毎日でした。楽しい食事は人生の生きがいです。自分自身の嚥下リハビリを紹介しながら、食べる・飲み込むメカニズムを見つめ直し、多職種で取り組む嚥下障害の予防・治療・リハビリを考えてみたいと思います。【阿部 記】

お問合せは 協会事務局 沖野・林・石本 TEL:078-393-1805 まで

【お申し込み】FAX:078-393-1802 尼崎支部 第107回医療と福祉を考える会(4/19)

()市 医療機関・事業所等名()
TEL(- -)

参加者ご氏名	職種

兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

449号

2025年3月25日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

医院継承セミナーを開催

医院継承って？



医院継承成功のポイントを解説する市岡寛也氏(左)・自身の医院継承を振り返る大前隆仁先生(右)

協会尼崎支部では2月15日、尼崎市中小企業センターで、医院継承セミナー(医科)を開催、5人が参加した。第1部「成功する!医業継承の進め方・ポイント」をテーマに総合メディカル株式会社・市岡寛也氏、第2部「診療所継承の一事例」をテーマにおおまえホームケアクリニック院長・大前隆仁先生が講演した。白壁昌弥先生の感想を紹介する。

昨今の行政の横暴は、はなはだしく2030年度には無床診療所にも電子カルテ設置を強要している。これに対してわれわれ無床診療所の経営者は反対意見を述べるものの、一部?多くの経営者は2029年度をもつての閉院を視野に入れているようである。私もいつの間にか高齢医師となり閉院も考える時、医業継承ってどんな?と思い参加した。

第1部では閉院か継承か、さてどっち?それぞれのメリット・デメリットの内容。いざ継承となるとそのフローチャートの順序と細かさ、家族と話し合っ自分一人決めはダメ!信頼できる仲介コンサルタントの選定、募集条件、情報管理の徹底、継承医師(買い手)の経歴・診療方針、売り手と買い手の歩み寄り、最終契約後の継承完了、やっ私はハッピーリタイヤ?すべて上手くいくかは?!まともにくいケースのポイントも多々あり、仲介者なしの継承はそれこそストレスいっぱいと思われた。

第2部では、大前先生の経歴(漢方薬による診療・県立尼崎総合医療センターで開業医との連携)から医業継承に至る経過など自己の経験を詳しく語っていただいた。

第1部と大きく違い驚いたのは、売り手と買い手の間に仲介業者がいなかったこと。売り手の開業医と病院の勤務医との病診連携から始まったケースは、確かに少ないように感じる。

継承するのは建物物件だけではなく、診療所の職員、外来・訪問診療患者などもろもろ。最

(2面につづく)

(1面のつづき)

初から多くの患者を引き継ぐと経営面では有り難いが、肉体労働者としては疲れが溜まる。知人の医師の助けを借りつつ多くの患者対応ができるのは、大前先生の若さと勢いがあるからと高齢医師としては、羨ましく思う。診療所の職員対応も前医と同じではない。当たり前だが、職員にとっては今まで通りが良いに決まっている。

継承医師の苦勞が色々伝わってきた講演会でした。大変勉強になりありがとうございました。

【尼崎市・白壁 昌弥】

医療と福祉を考える会・感想文

高齢社会での住宅改修を改めて考える

尼崎支部は1月23日、尼崎市医師会館で第106回医療と福祉を考える会を、医療と介護の勉強会 i-k a i と共同開催した。「介護される人・介護する人が主人公の住宅改修」をテーマに、坂根弘子氏(住宅改修ひとがしゅ、一級建築士)が講演し、会員・ケアマネジャー・介護施設職員ら12人が参加した。参加した支援センターつくしケアマネジャーの西山さとみ氏の感想を紹介する。

現在兵庫県の65歳以上の人口は160万9000人であり、高齢化率は30.0%となっており(内閣府2024年版高齢化の状況参照)、今後も増加傾向にある。今回開催された「介護される人・介護する人が主人公の住宅改修」は今後の高齢化社会をどうよりよく過ごすかという指針になり、非常に重要な論点になると考えた。

私の経営する事業所でも住宅改修サービスを活用されるご利用様は多く、その要望は様々である。今回講師をしてくださった住宅改修ひとがしゅ様には改修の依頼をする機会が多い。その理由としてはご利用様に寄り添った住宅改修を行っていただけるからである。私の経営する事業所でももっと寄り添えるサービス向上、また住宅改修についてどこまでできるのかという知識を深めるため、さらにお互いの事業所で理解が深まり相乗効果となることを目的とし参加した。

今回の講義に参加して、住宅改修を行うにあたり「できる幅」を増やすには資金が必要であり、参加された医師の先生方の住宅改修費の増額の提案【下記<解説>を参照】は介護事業者にとって希望である。介護支援専門員・福祉用品レンタル改修事業所・医療の面からそれぞれがご利用様を支えることでより良い生活が送れると考える。例えばご利用様の要望に対してわれわれだけでなく医療関係者の提案もあれば、新しい気づきが発見でき、共有できれば今後お互いの発展にも繋がり高齢社会にも明るい未来が望めるのではないだろうか。

保険医協会の研修会に初めての参加をさせていただいたことに心より感謝申し上げます。

【尼崎市・支援センターつくし・ケアマネジャー 西山さとみ】

<解説>

尼崎市では、国と兵庫県の制度に基づいて、要介護認定者や障害のある市民を対象に「住宅改修助成事業」を設けています。100万円上限で、20万円は国、80万円は兵庫県が助成しています。

このたびの医療と福祉を考える会で、この金額が25年間もの間、据え置かれていることなどの問題点が浮き彫りになりました。尼崎支部では尼崎社会保障推進協議会とともに、改善を求めていきます。

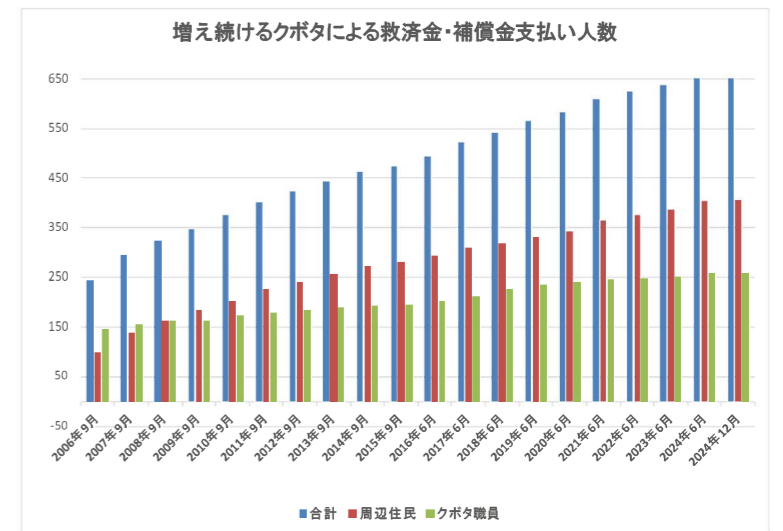


熱心に住宅改修事例を聞く参加者

クボタショックからまもなく20年 すべての被害者への救済が急務

(株)クボタの2月13日公表資料によると、クボタ旧神崎工場によるアスベスト被害者が引き続き増えていることが明らかになりました。工場周辺住民への「救済金」407人、クボタ従業員への「補償」259人で、合計666人。

アスベストによる健康被害は潜伏期間が20~50年と長いため、今後も被害者が増大することが予想されています。すべての被害者への救済が急務です。



<アスベストの被害からいのちと健康を守る尼崎の会>

第18回総会のご案内

日時:4月19日(土)14:00~ 会場:小田南生涯学習センター
(JR尼崎駅南口より徒歩5分)

アスベストによる健康被害を心配される患者様がおられましたら、下記までご相談ください
連絡先:06-6489-2600 (TEL・FAX 共通) まで

—第606回幹事会だより—

2月19日(水) 於:かごの屋 塚口店

○尼崎支部の会員数

2/1現在 医科381人、歯科170人

○医療をめぐる情勢と運動対策

尼崎医療生協から「日本国憲法第9条の碑」建碑への協力要請があり、尼崎支部からの募金協力が承認された。また、住宅改修助成事業の問題点について討議を行い、尼崎社会保障推進協議会とともに国と自治体に対して改善を求めることを決定した。

○3月日程 3月19日(水)13:00~ かごの屋 (南塚口町8-9-5)

お問い合わせはTEL 078-393-1840 林・沖野・石本まで

支部会員の先生方へ

未入会のお知らせの先生、ご子弟に入会を是非おすすめください